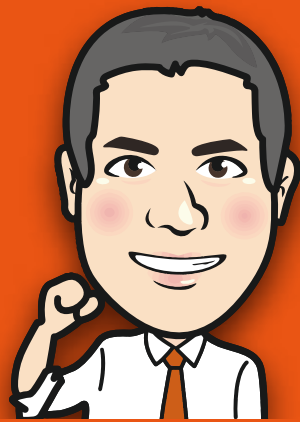


# 市政報告



## みんなで守ろう!白砂青松

「失って分かる大切さ」。人生の中で何度も感じたことがあると思います。北区松浜地域では、大きな松林が松食い虫により全滅し、大変な被害に見舞われ、現在中央区の海岸線にある松林でも同様の被害が確認されています。

はじめは防風砂林の機能が低下していると住民からの報告でした。政務活動として調査を行い、松食い虫の実状を確認。新潟市が燻蒸作業を行っています。

しかし、作業が完了しているにもかかわらず被害を受けている松を複数発見し、市に通報することになりました。



### 松食い虫被害の原因

- 1.市の感染調査が3ヶ月に1度で、調査時に感染兆候が出ない木がある。
- 2.調査と調査の間に落葉が進行し、見落とし木がある。
- 3.太い落枝や、倒木の見落としがある。



国の松食い虫対策のマニュアルでは、多くの人の目で何回も調査し、見落としをしない。と強調されています。新潟市にこの対応をもとに、調査回数を増やし、調査間の期間を縮める。判定が難しい場合は疑い木として黄色いテープを巻く。このような体制強化を提案しました。その中で新潟小学校地区コミュニティ協議会、ボーイスカウト新潟第五団の皆様と協力して、松林の見落とし調査を実施し「多くの目で見える」対策を実施させて頂きました。

## 市街地の松は、自らの手で守ってください

お庭の松は、家の「顔」です。松食い虫からお家の松を守るには、薬剤の樹幹注入が有効です。松食い虫被害にあって伐倒する費用はとて高額で、樹幹注入は費用も伐倒より安く木を守ることができるので、どちらが有効かは一目瞭然です。

自宅の松を守ることは、地域の松を守ることに繋がります。そのためにも樹幹注入をぜひ検討してください。

地域の自然を守るために、皆様のご協力をお願いします。

※詳しくは、お近くの造園業者様にお問合せください。





# 中央区のこれから(栗の木編)

道路は環状線化する事が大切です。新潟バイパスから海岸道路まで繋ぐ、栗の木バイパスの完成が急がれます。

沼垂コミュニティ協議会・NPOなじらね沼垂・蒲原祭実行委員会・沼垂テラス・大醸す祭りの代表者の方と、栗の木バイパス脇の側道整備について5年間に渡って、検討を行って来ました。

栗の木バイパスの完成後も、安全に楽しく沼垂祭や蒲原祭、沼垂テラスの朝市、大醸す祭などが円滑に行う為に、側道の造り方(歩道と車道の関係など)が大切との考え、地域の方にインターネットアンケート等を行いました。

## ■アンケート結果

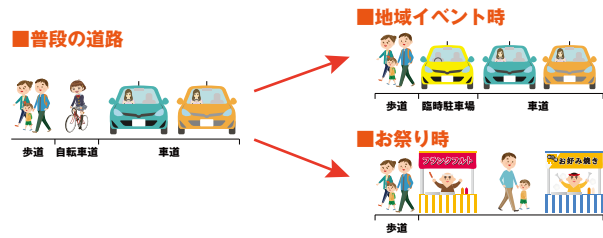
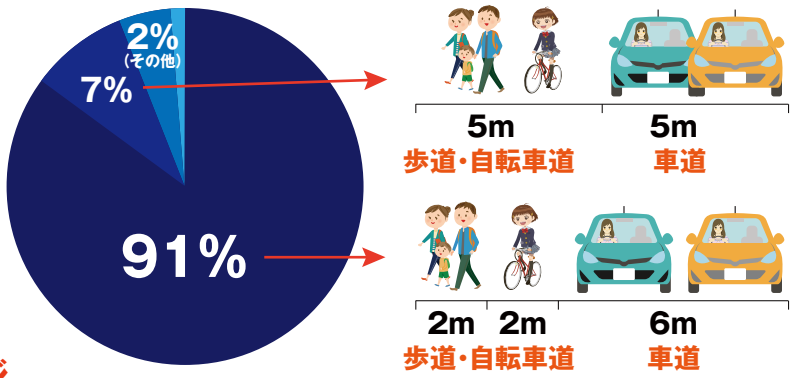
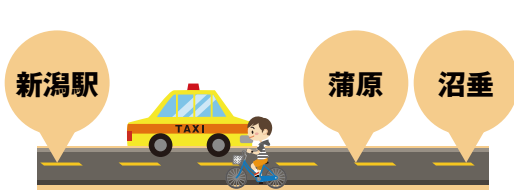
栗ノ木バイパスの工事が進んでいます。対面通行の幅員約10mの側道も併せて整備されますが、歩道や車道の幅は、どのようなバランスが良いと思いますか。

回答総数	歩道幅5m+車道幅5m	歩道幅2m+自転車道幅2m+車道幅6m	その他
186	6	168	12

また、新潟駅から、蒲原神社の梅や県の重要文化財。沼垂テラスと沼垂寺町にある足つぼロードや八十八箇所巡りと言った、観光財産を繋ぎ合わせる為に、在来線の高架下空間に、歩道やサイクリング道路を設置する提案を2月定例会で行っております。これならば、雨にあたらぬ通路として、新潟駅の高架化の効果を沼垂長嶺地域が享受する事が出来ます。

このような地域の発展の為には、国の力が必要です。衆議院議員の先生や国の機関とも相談をさせて頂き、一歩ずつ地域の声を国に届ける努力を続けております。

## ■道路空間イメージ



今年度に入ってから、新潟市選出の衆議院議員から現地視察にお越し頂き、その後、中原ハーマン市長と共に、国土交通省に栗の木バイパス整備の要望を行って頂きました。地域の皆様には、バイパス工事等でご迷惑をおかけしますが、地域経済の未来の為に、ご協力をお願い申し上げます。



地域の方から陳情を頂きました。

## ■地域問題・空き家の課題解決

新潟市選出の衆議院議員の視察に随行した際、地域の方から陳情を頂きました。沼垂テラスと寺町の間に、昔懐かしい飲み屋さん街があります。現在営業されているのは1軒となり、使われなくなったお店の屋根が道路に散乱する。一部で漏電が起った。など、何とかして欲しい。とのご相談でした。

衆議院議員からは、国土交通省への問い合わせと合わせて、新潟市、市議会議員に対して、しっかりとした対応を求められました。現在、新潟市の地域活動補助金を活用し、当該地の五区と隣接する四区町内会の役員や隣地の方々と、法律や建築の専門家との勉強会を開催しました。具体的な安全対策が進む様に、今後も対応させて頂きます。

後日談として、まずは、電気火災を防止する為に、空き家になっている店舗に繋がっていた電線の除去を新潟市を通じて、東北電力様に対応戴きました。ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。



空き家の電気火災を防ぐため、電線除去の対応をして頂きました。

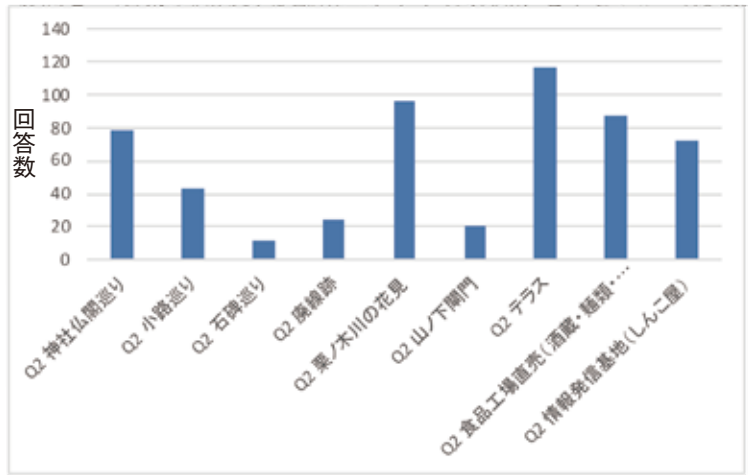


使われなくなった店舗は、劣化が著しく危険な建物となっています。

## 地域の発展について、地域の想いを伺いました

街造りは10年先を見て行う必要があります。まずは皆さんの声を伺う事から始める事としました。「中央区の発展について(栗の木編)」に記載した、地域の皆様のアンケート結果と、インターネットを使ったアンケート結果をご報告致します。今後の街造りについて、皆さんの声を伺いながら、未来の人々の為に進めて行きたいと思えます。

### ■質問 地域の魅力ある観光スポットをお聞かせください。



新潟市議会議員 美のよしゆき

# 市政報告



# 地域の安全確保

毎日使う道路の多くは新潟市が管理しています。  
危険な交差点について、カーブミラーの設置の要望を頂きました。  
対応方法としては「市により新設する場合」「町内会として市の許可を受けて設置する場合」の2種類の対応があります。市で新設する場合、複数年要望を続けることが大切です。町内会として設置する場合は許認可だけなので、比較すると早く設置が可能です。カーブミラーは市民の安全確保に必要な道具です。地域の安全対策のご相談は中央区の建設課までご相談ください。

■設置前



■設置後



## 学校の安全確保

「いざ」というときに使う小学校の非常階段、普段は使わない所ですが、少し気になって現地調査を致しました。市の担当課によれば、「設計上の規定は守られている」としていますが、実際にその場に立つと、より一層の安全対策が必要だと感じました。育成協議会の会長と相談し、教育委員会に要望書を提出して頂きました。

■設置前



■設置後



手摺りの位置が低く、非常に危険に感じる箇所



要望書の提出

小学校PTA会長からは、体育館が暗く照明のLED化を行って欲しいと、ご意見を頂きました。要望書を出して頂き、本年度からLED化が行われています。



体育館の照明をLED化

新潟市では、地域や学校の安全にも、しっかりと目を配らせています。

地域の方から自治会、そこから中央区の関係課へと進みます。地域の「不便」や「心配」があれば、先ずはお住まいの自治会へご相談ください。

## 市議会議員の市議会での活動

このような事例に対応するには予算の確保が大切です。小学生の子どもを持つ市議会議員として、教育予算の拡充を求め、議員活動を行っております。新潟市議会のHPでは、議会での発言を閲覧できます。「新潟の未来は子供たち」で検索してみてください。



# 市議会報告のあり方について

本年度、環境建設常任委員長として、新潟市議会のホームページにて委員会報告をさせて頂きました。制作にあたり、子ども達にも分かりやすい説明を試みしたので、ぜひ皆様のご意見をお聞かせください。

他にも、Youtube「新潟シティチャンネル」では、新潟市の様々な情報を発信しています。にいがた2キロの情報だけでなく、新潟市のイベントや市の紹介動画など、新潟市の魅力がたくさん詰まったチャンネルになっています。ぜひ一度ご覧ください。

## 新潟市が進める皆様への想い

政治とは、先ずは市民の皆さんの命を守ることと考えています。新潟大学の研究によれば、中央区では信濃川河口の津波対策が重要と言われています。現在、河口周辺の公共施設に一時避難所機能の付与を求めています。公共でなければできない安全対策を、今後も求めていきます。

12月議会では以前から要望していた「各避難所への自然発電装置と蓄電池の配備」が決定しました。できることから一歩ずつ。市民の皆さんの命を守る活動を続けていきます。

議会報告は  
こちらから



部・区名	危機管理防災局	課名	防災課	問い合わせ先	025-226-1143	担当者	関
事業名	避難所における感染症対策事業						
金額(千円)	歳出	60,000	財源内訳	国費60,000(臨時交付金60,000)			
事業概要	避難所に感染の疑いがある人や体調が優れない人等が来所した際に、医療機関等への速やかな連絡が行えるよう、ポータブル蓄電池とソーラーパネルを配備し、避難者が使用する携帯電話等の非常用電源を確保します。						

発行 市議会議員  
美のよしゆき

〒951-8077 新潟市中央区烏帽子町3109

☎025-225-1131

※本紙は、政務活動費を使用しています。



過去の  
市政報告は  
こちらから





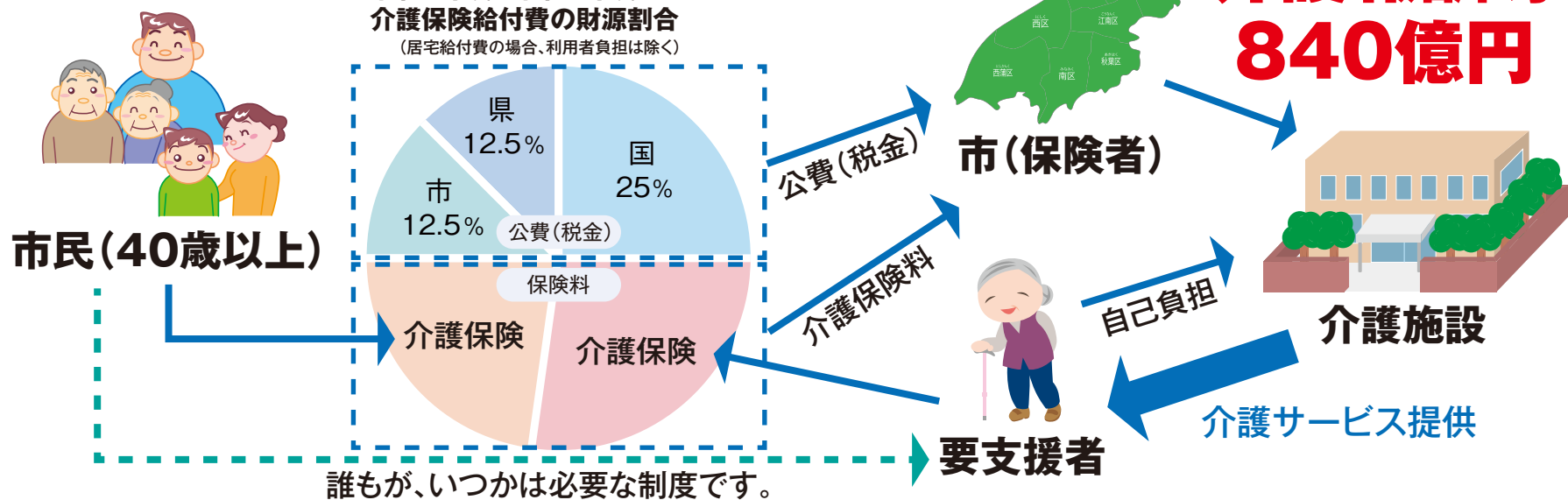
## 市政報告



## 介護福祉の仕組みについて

私の祖母の時代は、家族が支えるのが当たり前でした。現在は要介護度に応じて、公的支援が受けられます。介護報酬等は40歳以上の皆様に納めて頂く介護保険料と、消費税収入などの国・県の税金（国税・県税）、固定資産税や住民税など市の税金（市税）が財源となり、介護が必要な場合に誰もが安心して利用できる介護サービスという制度が成り立っています。

■令和3年度～令和5年度の  
介護保険給付費の財源割合  
(居宅給付費の場合、利用者負担は除く)



人は必ず歳をとります。身体や記憶は年齢相応であり、誰もが介護が必要になる可能性があります。そのため、全ての40歳以上の方に介護保険を納めて頂き、自分に介護が必要になった場合、介護サービスを受けられる。そんな仕組みになっています。

## ■ところで「子ども保険」って知っていますか？

介護保険が皆さんの、将来のための仕組みとして紹介しました。

子どもを産むと、子育て・教育の費用は「国・県・市」はもちろん負担します。

しかし、親も多くの教育費を負担します。

40年前に少子化問題の解決にチャレンジしたヨーロッパの各国は「『介護を含めた社会保障を守るためには、良き納税者が必要である』という社会認識を国民が共有し、大学・専門学校等の教育費は本人や親だけでなく、全ての国民が負担しよう。」として子ども保険を創設しました。

日本では子ども保険ではなく、前回の増税の際、消費税を子ども達の教育費にも使えることになり、現在、親の所得が少ない世帯の大学等の教育費が無償となっています。税は誰もが嫌なことだと思いますが、その税収が子どもを産み、育てやすい社会を作るために使われることにも、想いをはせて頂けたら幸いです。



大学無償化についてのホームページ

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/daigaku/2019-mushoka.html>

大学無償化 新潟

